

福祉厚生常任委員会視察報告

公立みつぎ病院(尾道市御調町)

超高齢化社会における医療・介護・保健・福祉が連携した取り組みと住民のための病院づくりについて学ぶため視察研修を行いました。

病院の理念は、「地域包括医療・ケアの実践と地域包括ケアシステムの構築及び住民のための病院づくり」として、不採算医療も行い、心から住民が安心して暮らせる町の環境を守る役割も果たされていました。

在宅医療や在宅介護の充実など、寝たきりゼロ作戦(介護予防)として、保健・医療・介護・福祉の統合システムを機能させる取り組みが30年前から行われていました。

御調町における地域包括ケアシステムの成果として、昭和55年の在宅高齢者1,479人中、寝たきりは38%から、平成26年には2,532人中12%であり、いかに寝たきりにならない対策が実行されているかわかります。

特筆すべきことは、病院の一階フロアの一隅に保健・医療・介護・福祉・行政が同居し、患者や利用者に迅速に対応するための体制が取られていることでした。



広島がん高精度放射線治療センター(広島市東区)

広島県と広島医師会で作られ、センターの建物は事業費58億8千万円で地下1階、地上2階建てで10月より運営されたばかりでした。

設置されている医療機器は、3台で、治療台を動かすことなく多方面から高精度な照射を行い、エックス線透視イメージシステムにより、がんの位置を確実にとらえることができる機器です。短時間で被ばく量の少ない放射線治療が可能で、早さが従来の2~3倍で、2.5ミリと5ミリのピンポイント照射を得意とするもので、奥出雲からの治療も可能との話でした。



あおう 穴生浄水場(北九州市八幡西区)

微生物による水道水の浄化とコスト軽減について学ぶために視察しました。

北九州市では微生物による上向き生物接触ろ過(U-BCF)装置を導入し、水道水の浄化を行い、一般的な高度処理を比べ建設コストは1/2、ランニングコストは1/20の削減ができるので大いに参考になりました。

総務文教常任委員会視察報告

廃校の利活用について

【綾部市里山交流研修センター】

綾部市は奥出雲町よりやや狭く、人口は約3万3千人の冬には雪も積もる山あいの地域です。綾部市では少子化のため13校の小学校を10校にする再編が計画され実施されました。

廃校は、集会や行事等で使用する貸館、伝統工芸品である和紙の作業所及び大学校の実習施設(体育館は公民館付属の多目的ホール)、今回視察を行った里山交流研修センターとして活用されています。

センターは、指定管理方式でNPO法人里山ねっと・あやべによって運営されており、農業体験、パン焼きなどの料理体験、里山に親しむ体験、商品開発、情報発信、宿泊・合宿受け入れ、貸館などの機能を持っています。

利用者数は、平成26年度実績で、交流人口4千人、宿泊人数千人、施設利用者7千人となっています。



そろばん教育、特徴的な保育所運営について

【尼崎市教育委員会、社会福祉法人あゆみ福祉会「むこっこ保育園」】

尼崎市では長年学力向上が大きな課題になっていました。解決方法としてH16年に特区申請し、21年からは市内全42小学校で小学校3、4年生で年間50時間ずつそろばん教育に取り組んでいます。

計算力について、生徒、教員とも7割以上が効果がある。取り組みは保護者の95%が良い。とし、大きく評価を受けています。実際の学力は、全国学力調査の小6算数、中3数学において、平成19年度は全国と比べ4~11ポイント差がありましたが、平成26年度には2~3ポイント差まで大幅に改善しています。

学力向上に取り組む、また、全国に誇るそろばんの産地の奥出雲町において、そろばん教育を取り入れなければならないというのは視察した委員の一致するところです。

「むこっこ保育園」では、子どもたちがいきいきと生活できるようにヒトとしての身体的生活リズムを守り育てること、仲間とともに五感を働かせる様々な実体験を保障することを保育方針に、午前10時半頃から睡眠をする午前睡を取り入れています。

午前睡や食育や好き嫌いがなくなる美味しい給食、リズム運動や描画活動を通じ、保護者が通わせたい保育園として、また、園児だけでなく、地域の子育ての拠点の保育園となっていました。